

<ケーススタディ>

「情報資源組織演習」授業実施報告 ～NCR2018 導入初年度の取り組みと課題～

剣持和江

1. はじめに

筆者は、近畿大学通信課程の3日間の対面授業で「情報資源組織演習」を担当しており、科目終末試験を含め約20時間の枠内で「目録」、「件名・分類」を教えている。2025年度より、「情報資源組織演習」の授業において、「目録」部分は従来使用していたNCR1987から、NCR2018に基づいた目録作成の指導へと内容を更新した。これは、図書館界における目録規則の大きな転換を受けたものであり、教育現場においても新たな規則への対応が求められる中での試みであった。

2024年度まではNCR1987に基づいた教科書『改訂情報資源組織法』（志保田務，第一法規：2021）を使用。2025年度よりNCR2018に対応した教科書『三訂 情報資源組織演習（現代図書館情報学シリーズ）』（小西 和信，樹村房：2021）に切り替えることとなった。なお、報告者自身はNCR関連の研究者ではなく、民間企業研究所の情報部門で技術調査、電子ジャーナル・図書室管理を行っていた過去の経験から現在近畿大学で上記授業を担当するようになったものである。

この報告では2025年7月に筆者自身初めてのNCR2018に基づいた授業の実施状況と反省を記載し次回演習授業への改善点を考えたい。

2. 事前準備

使用予定の教科書、および蟹瀬の「NCR2018の要点解説 資源の記述のための目録規則」¹⁾、ネットで公開されているメタデータ評論^{2)、3)、4)、5)、6)、7)}、日本図書館協会⁸⁾、国立国会図書館⁹⁾等のNCR2018についての資料を読んだ。教科書のどこに時間を割くか、演習課題に向き合うときに必要な準備を考えるために以下の作業を実施。

- i. FRBRの概念モデルについて：教科書 p.18. 「2-1 図 FRBRの概念モデル」、渡邊隆弘.“日本目録規則2018年版(NCR2018)とは？ 何を変えようとするのか”⁸⁾、国立国会図書館収集書誌部 収集・書誌調整課.“図解 よくわかるNCR2018-データ作成事例を図にしてみた- 2024年度版”.¹⁰⁾ にて概念モデルと関連の向きの流れを理解し、説明に使う資料を選択。
- ii. 演習問題：日本図書館協会.“日本目録規則2018年版データ作成事例”¹¹⁾に則り、教科書の演習問題（3章から4問、4章から3問）に回答し、フォーマットを作成。
- iii. 演習問題回答に必要な「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス」画面の印刷

3. 学生側の準備および事前学習

- i. 教科書の準備を必須とする
- ii. 以下のレポート提出を求めた。

「任意の、図書 1 件、雑誌 1 件を、①国立国会図書館サーチ、②任意の公共図書館の OPAC、③国立情報学研究所の CiNii Books、④任意の大学図書館の OPAC で検索し、その資料に関するデータがどのように表示されているかを比較し、レポート形式で作成。字数：A4用紙、2~4 枚、提出期日：初日講義開始時」

(受講生の中の 1 名はシラバスも読まず、事前レポート未提出、教科書不所持のまま参加した学生がいた。)

4. 演習授業

- i. 初めに、対面授業であるため、学生同士の交流・情報交換に努めてほしい旨を述べ、お互いの自己紹介から始めた。ここで図書館関係者は皆無であることを確認(受講者 7 人)。
- ii. この授業は書誌データ作成技術・分類付与技術について演習を通して学ぶことが目標であることを説明。授業は教科書に即して実施。目次から、授業で詳細説明予定の章・節を紹介し、初日と 2 日目午前中を「目録」の説明と教科書の演習問題に当てた。
- iii. NCR2018 は、RDA の理念を取り入れた新しい目録規則であり、従来の記述中心の紙の目録カードの取組みから、コンピュータのデータベース管理前提のデータが相互につながる利用者視点の構造的な情報提供へと転換している。授業では、FRBR の 4 つの概念モデル(著作、表現形、体现形、個別資料)を説明した。FRBR の概念モデル：教科書 p.18 2-1 図に加え、NDL 作成の「図解 よくわかる NCR2018-データ作成事例を図にしてみた」¹⁰⁾(p.4 の図)、渡邊の資料⁸⁾(27 枚目の図 0.3)をスライドで写して説明(関連の矢印は NDL、渡邊の図が理解しやすいと考えた)。教科書 p.19 2-2 図で第 1 グループの 4 実体のイメージを理解させた後、記録に関する総則を説明。
- iv. 目録作業の実際：図書 書誌データ記録に関する説明を教科書 3 章 p.31-34 を見ながら説明、各実体の関連、エレメント、典拠形アクセス・ポイントと記載の違いを確認させた。各実体のエレメントを表にした書式を学生に配り、学生がそれぞれの階層を意識しながら目録を作成する演習(教科書 p.76 以降の演習問題 3 問)に取り組ませた。個別に学生に当て、教室前のホワイトボードに回答を記載させ、それと異なる回答をした学生にはその部分を指摘させ、講師が回答を追記・修正しつつ説明。
- v. 目録作業の実際：図書以外の資料は図書と異なる部分のみ説明。
- vi. しかしながら、すべてのエレメントを書かせようとしたため、時間の不足を感じ

つつ授業を進めた。翌日までの宿題として p.78 以降の 2 問の演習問題を出した。

- vii. 翌日、演習問題の回答をホワイトボードに書かせて、議論。

5. 科目終末試験

- ・ 目録部分は 2 問。各実体別にエレメント、典拠形アクセス・ポイントを書かせたため学生はかなりの時間を要していた。

(因みに「件名・分類」部分は 12 問)

6. 受講した学生の授業評価からの抜粋

- i. 授業は非常に充実していたが、内容が多く時間が足りなかった。
- ii. 授業は、一人で勉強しているときに比べて、要点が分かりやすく構成されていた。
- iii. 試験については、時間と内容について検討の必要があると考える。
- iv. 最終テストの問題が私には多く、最後まで答えられなかったです。問題をもう少し減らして頂けるか、試験の時間をもう少し長めに設定していただけるかお願いします。また、最初の問題に記入欄があれば時間削減になったように思いました。

7. 講師としての反省

- i. 時間不足は多くの学生が指摘している通り、報告者自身も授業中にも感じていた。手書きによる記述作業は予想以上に時間を要し、演習時間が不足するという課題も浮き彫りとなった。特に、複数のエレメントを丁寧に記述し、さらにそれを相互に関連づけて理解するには、より多くの時間と反復が必要であると実感した。フォーマットを演習問題ごとに作っておくべきであった。時間制限のある終末試験はすべての実体のエレメントを書かせる必要はなく著作・表現形・体現形・個別資料のどれかに限定した問題にし、それらに対応したエレメントを記載した用紙も配布すべきであったと反省。
- ii. 令和 7 年度担当教員交流会・意見交換にて、NCR2018 年度版について、「同じ内容の書き写しは必要なく、情報の結びつきを理解させることが重要。演習では記述例を先に見せ、規則との対応を理解させる方法が効果的」、「演習は体現形属性に重点を置き、全体像理解のため回答例を配布。FRBR 概念モデルを丁寧に説明し、具体的な著作・表現形・個人・関連の扱い方も示す。」……等々、諸先生方より貴重で有益なご意見をいただき感謝している。
- iii. 限られた対面授業時間にもかかわらず、内容を盛りすぎた授業展開をしたための時間不足であったことを自覚し、諸先生方のコメントを生かしながらメリハリをつけ重要な点を理解させるよう準備し次回に備えたい。

参考文献

- 1) 蟹瀬 智弘. NCR2018 の要点解説 資源の記述のための目録規則. 樹村房, 2023, 184p.
- 2) 蟹瀬 智弘, 『日本目録規則 2018 年版』における書誌データと典拠データの問題について, メタデータ評論, 2022, 4 巻, p. 13-20, 公開日 2022/10/16, Online ISSN 2436-4347, https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.4.0_13, https://www.jstage.jst.go.jp/article/metadatahyoron/4/0/4_13/article/-char/ja, (参照 2024-10-26).
- 3) 蟹瀬 智弘, NCR2018 における非統制形アクセス・ポイントと記述の根幹について, メタデータ評論, 2023, 5 巻, p. 30-36, 公開日 2023/04/21, Online ISSN 2436-4347, https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.5.0_30, https://www.jstage.jst.go.jp/article/metadatahyoron/5/0/5_30/article/-char/ja, (参照 2024-10-26).
- 4) 岡田 大輔, 情報資源組織論で NCR2018 をこう教えています, メタデータ評論, 2023, 6 巻, p. 67-74, 公開日 2023/10/24, Online ISSN 2436-4347, https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.6.0_67, https://www.jstage.jst.go.jp/article/metadatahyoron/6/0/6_67/article/-char/ja, (参照 2024-10-26).
- 5) 蟹瀬 智弘, 『日本目録規則 2018 年版』に基づく「情報資源組織演習」実践例, メタデータ評論, 2023, 6 巻, p. 75-81, 公開日 2023/10/25, Online ISSN 2436-4347, https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.6.0_75, https://www.jstage.jst.go.jp/article/metadatahyoron/6/0/6_75/article/-char/ja, (参照 2024-10-26).
- 6) 山口 直比古, 記述目録法での NCR2018 紹介例, メタデータ評論, 2024, 7 巻, p. 64-72, 公開日 2024/04/14, Online ISSN 2436-4347, https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.7.0_64, https://www.jstage.jst.go.jp/article/metadatahyoron/7/0/7_64/article/-char/ja, (参照 2024-10-26).
- 7) 蟹瀬 智弘, NACSIS-CAT 「目録システムコーディングマニュアル「NCR2018 対応版」」のおもな変更点と『日本目録規則』との対応関係, メタデータ評論, 2024, 8 巻, p. 24-35, 公開日 2024/10/19, Online ISSN 2436-4347, https://doi.org/10.51042/metadatahyoron.8.0_24, https://www.jstage.jst.go.jp/article/metadatahyoron/8/0/8_24/article/-char/ja, (参照 2024-10-26).
- 8) 渡邊 隆弘. “日本目録規則 2018 年版 (NCR2018) とは? 何を変えようとするのか”. NACSIS-CAT CM・目録情報の基準改訂説明会 2024.9.13. https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/korekara/2024-09/20240913_1_watanabe.pdf, (参照 2024-12-24).
- 9) 国立国会図書館. “日本目録規則 2018 年版 (NCR2018) について”.

<https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/>, (参照 2024-12-24).

- 1 0) 国立国会図書館収集書誌部 収集・書誌調整課. “図解 よくわかる NCR2018-データ作成事例を図にしてみた- 2024 年度版”.

https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/zukai_ncr2018.pdf, (参照 2024-12-24).

- 1 1) 日本図書館協会. “日本目録規則 2018 年版データ作成事例”. 公開日 2024 年 03 月 15 日. <https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018-info/ncr2018-sample/>, (参照 2025-05-04).

(けんもつ かずえ)

2026 年 4 月 8 日受理